

滋賀県知事選

2014年7月13日に投開票され

「卒原発」を訴えた三日月大造氏が当選しました。
新聞各紙の社説から原発に絡む部分を抜き出します。

産経新聞

2014年7月14日主張

「知事選自民敗北 慢心への警告受け止めよ」

三日月氏は民主党衆院議員時代に、原発輸出を可能にする協定の承認に賛成している。
再稼働も安全の確保を条件に容認する立場ではなかったか。

「卒原発」など再稼働に極めて慎重な姿勢を打ち出したのは、嘉田氏の支援を受ける上でやむを得ない面もあったのだろう。

**県民の命と生活を守るエネルギーを確保する。
自治体のトップは、その責任も負う立場にある**
ことを忘れないでもらいたい。

読売新聞

2014年7月14日社説

「滋賀県知事選 与党の緊張感欠如も響いた」

疑問なのは、三日月氏が、嘉田知事と同様、
段階的に原子力発電から脱却する「卒原発」を唱えたことだ。
原発政策は、政府が大局的観点から判断すべきものだ。

**原発の再稼働などには、
知事の法的権限は及ばない。**

現状は、原発が稼働せず、火力発電の燃料費がかさみ、電気料金は上昇し続けている。

**政府は、関係自治体の理解を得て、
原発の再稼働を急がねばならない。**

日経新聞

2014年7月15日社説

「滋賀知事選が示す政権の緩み」

隣接する福井県にある関西電力の原発が動くかどうかは近畿地方全体の電力需給を左右する。

**安倍政権を揺さぶるためだけに
再稼働を人質にすることは許されない。**

毎日新聞

2014年7月14日社説

「滋賀県知事選 政権のおごりへの批判」

嘉田氏の提唱した「卒原発」を三日月氏は継承した。

原発再稼働に前のめりな安倍政権に対する批判が作用した可能性もある。

東京新聞

2014年7月14日社説

「滋賀県知事選 強引政権は猛省せよ」

三日月氏は、民主党衆院議員時代に原発輸出を可能にする原子力協定承認案に賛成したこともあったが、嘉田知事の支援が固まってからは**「卒原発」路線の継承を明言し、脱原発票を取り込んだ。**

朝日新聞

2014年7月14日社説

「滋賀県知事選 地元軽視の国策にノー」

原発の再稼働を一気に進めようとする安倍政権に、強烈なノーが突きつけられた。

(中略)

安倍政権は、原子力規制委員会の審査でOKが出れば、鹿児島県の川内原発を皮切りに次々と全国の原発を再稼働させる方針だ。そんな中で、「被害地元」である滋賀県の住民の鳴らした警鐘は重い。

規制委による原発の設備のチェックだけでは住民の安全を守り抜くことはできない。いざというときの実効性ある避難計画をどう整備するか、被害を受けた住民への補償体制をどう準備するのか。三日月氏は、今なお残されたままの多くの課題について、政権や電力会社と交渉しなければならない。

私の感想

総有権者数 1,104,765 人

投票者数 554,078 人

三日月氏得票数 253,728 人 ◀総有権者の約23% 参考資料①

これで朝日新聞が言うような「強烈なノー」なのでしょうか？

三日月氏の政策提案集(参考資料②)を見れば「卒原発」はたくさんある政策のうちの1つです。

投票に行った55万人のうち、どれほどの人が原発を意識していたか？

結局、原発など個別の問題についての民意を選挙結果から読み取るというのはかなり無理があるのではないかと思います。

だからこそ、個々の問題は議会で議論し、少数意見も尊重しながらお互いの落としどころを探っていかななくてはならないはずです。ところが、当選してしまえば全ての政策が信任されたかのように錯覚し、反対意見を蹴散らしてしまう例が多すぎます。(国会なんてそればかり。)

これで民主主義なののでしょうか？

<参考資料>

①滋賀県知事選挙 投開票情報

<http://www.pref.shiga.lg.jp/senkyo/chiji2014/toukaihyo.html>

②三日月大造政策提案集

<http://www.genki1.com/site/cms/wp-content/uploads/2014/06/mikaduki-web.pdf>